

冬・到来！寒さが一段と深まる季節

師走の頃、本格的な寒さを感じる頃となりました。本年も残すところあとわずかですが、年末年始は、冬型の気圧配置が持続しやすく、冬らしい寒さとなる予報も出ております。この冬の天候は・・・

エルニーニョ/ラニーニャ現象の経過と予測（気象庁発表）
気象庁は今日10日、エルニーニョ監視速報を発表しました。エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態と見られますが、ラニーニャ現象に近い状態となっています。今後、ラニーニャ現象に近い状態は冬の終わりにかけて急速に解消し、ラニーニャ現象の発生には至らず、春にかけて平常の状態が続く可能性が高くなっています。

	エルニーニョ現象	ラルニーニャ現象
場所	南米ペルー沖の太平洋赤道域	
現象	温かい海水が東へ広がる。表面の水温が上がる。	温かい海水が西へ寄る。表面の水温は下がる。
日本への影響	冷夏や暖冬になりやすい。	夏はより暑く、冬はより寒くなる傾向

寒い時期の追肥は千代田化成で決まり



“圧倒的溶けやすさ” & “pHほぼ中性”のダブル効果！
千代田化成は中空構造のポーラス肥料。圧倒的な溶けやすさが特徴です。土壌面への施肥となる露地の追肥でも、乾燥し雨が少ない冬場でも、少ない水分で溶けることでイオン化して土壌に浸透、吸収されます。
※肥料は水に溶けて**イオン化**しないと作物に吸収されません！
また、千代田化成はpHほぼ中性なので、比較的低温下であっても、微生物が活性化する為、イオン化されたアンモニア態チッ素を多くの野菜が好んで吸収する硝酸態チッ素に速やかに分解してくれます！

千代田化成は溶けやすさが違います！

他社 水溶性タブレット肥料(一般の粒状肥料より溶けやすい肥料)との比較



千代田化成は“溶け”のスタートダッシュが違います。その後の、吸収→生育において大きな差が出てます。

たまねぎの追肥 マルチの上からでもOK！

①マルチ栽培のたまねぎ

②千代田化成をマルチの上から散布する

冬期でも翌朝には、朝露で溶ける！

千代田化成
散布

マルチの上からタマネギの追肥

マルチ栽培たまねぎの追肥比較

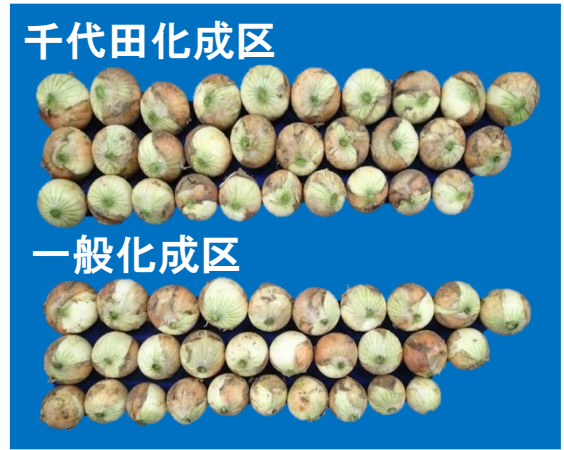
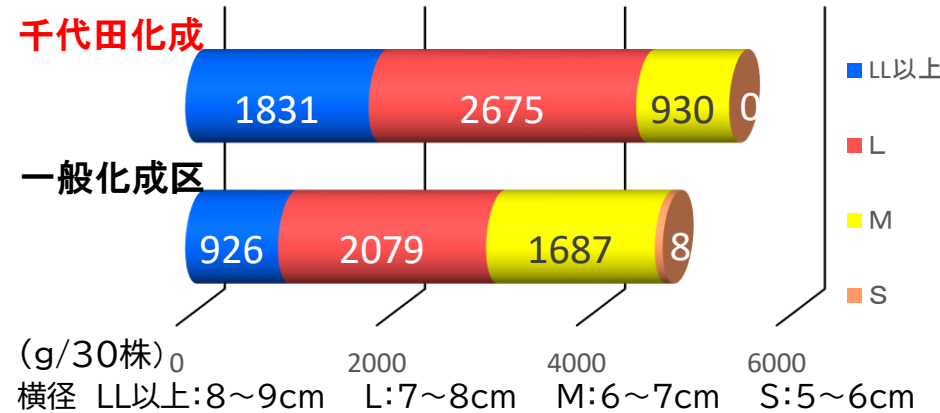
【試験方法】
試験場所：白岡市
供試作物：タマネギ(品種：スパート)
試験規模：10㎡(株間15cm、条間15cm4条植)
栽培方法：マルチ栽培

※栽培の経過
2019.11.15 施肥
2019.11.22 定植
2020. 1.14 追肥
2020. 2.10 追肥
2020. 5.22 収穫



		供試肥料	施肥量 (kg/10a)	成分量(kg/10a)		
				N	P	K
千代田化成区	元肥	オール16	75	12	12	12
	追肥	千代田550	20	3	3	2
	追肥	千代田550	20	3	3	2
	施肥量合計			18	18	16
一般化成区	元肥	オール16	75	12	12	12
	追肥	オール16	18.8	3	3	3
	追肥	オール16	18.8	3	3	3
	施肥量合計			18	18	18

千代田化成の追肥による収穫物への影響



追肥に**千代田化成**を使用するとこんなにも収量に影響がありました。

R7年度北星会府県研修会レポート

北海道から淡路島・徳島へ現地研修へ来ていただきました。

＜1日目、淡路島のたまねぎ生産者訪問＞



今年も好調な南あわじ市のたまねぎ。福永氏の圃場を視察。早生品種の育苗の真っ最中。千代田化成を使う場面は苗床と追肥。
苗床施肥基準 千代田化成472
元肥5kg・追肥5kg/1a
本田施肥基準 追肥 千代田化成472 40kg/10a

＜2日目、徳島県のにんじん生産者兼肥料店訪問＞

ベトコンマルチでの栽培を視察(徳島県藍住町)。作付は10~12月。3月後半~4月の早期出荷に向けて、にんじんの太りを良くする為、フミロン秋晴を100kg/10a使用。また土壌改良材としてシリカフミンFを使用。

